

行政調査報告書「建設常任委員会」

平成 25 年 7 月 24 日(水)～26 日(金)

■東京都目黒区「目黒天空庭園について」

首都高速道路ジャンクションの屋上のループ状道路の勾配を利用した回遊式庭園で、年間を通じて花や緑が楽しめるよう、計画的に管理され、来場者を飽きさせないよう工夫されていた。

人工地盤の用土には軽いパーライトを用いて工夫している点は、本市の公共施設の屋上緑化の普及促進にも役立てたいところである。こうした緑化推進施策の創設により、「市民とともに育む環境首都・安城」の実現に向けた取り組みをすることが重要だと感じた。



■東京都渋谷区「代官山ステキなまちづくり協議会について」

「代官山ステキなまちづくり協議会」は、自分たちのまちの良さを守るため、紳士協定的な話し合いにより、土地利用や景観の制限をする「代官山ルール」をつくり行政への提言をしていた。



この、紳士協定的な話し合いの背景には、住民同士の信頼関係や郷土愛が不可欠であり、これらを育む施策こそ、本市のまちづくりにおいても必要な施策であると感じた。

■神奈川県相模原市「街路樹管理について」

市役所前の通りは、ソメイヨシノやケヤキ並木が壮観で、市民の憩いの場として親しまれていた。

高樹齢なサクラの更新や「みどりのまちづくり基金」などの都市緑化推進施策は、市民の緑化意識を高める手法として、見習うべきところが多く見られた。



■青森県八戸市「八戸市地域公共交通会議について」

平成 24 年 1 月から、中心市街地から郊外に向かう深夜バスの実証実験を 2 か月間行っていた。

市民からはバス停の設置やルート改善等の要望が出され、本市と同様に市民の足をいかに確保するかが大きな課題となっていた。また、はちナビ娘“はちこ”と名付けた案内人を駅や観光案内所に配置し、公共交通の利用促進を図っていた点は、新たな推進施策として参考にしたい。



本市においても、環境保全と高齢化対策の一環として、「あんくるバス」による、市民の足を確保する取り組みを行っているが、今後は、自動車通行規制など、ドラスティックに交通対策を講じ、市民と行政が一体となった、持続的な行政運営をしていくことが重要だと考える。